

令和7年度 学校評価（実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価(3月19日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	・「自分の可能性をきりひらく子を育てる」の視点から、個別教育計画を中心に据えた各部門課程における個々の児童生徒の教育活動の充実を図る。	①個別教育計画の目標設定と手立ての的確な設定に基づいた、個々の児童生徒に応じた指導実践を行う。 ②児童生徒の個々の目標や状況に応じてのICTを活用した学習活動の充実を図る。	①アセスメントの結果や、作成されてきた手引き等を活用する流れを確立して、チームでよりよい目標設定と手立ての工夫について検討・実践を行う。 ②様々なICTを活用した実践例を部門内や学校全体で共有して、学習グループや個別学習の状況に応じた指導の工夫を積み重ねる。	①アセスメントや手引き等を有効に活用できる流れを確立して、チームとして目標設定や手立ての検討を行い、個々の児童生徒の指導の充実につなげられたか。 ②ICT活用のチームや学校全体での共有をすすめることができたか。また個々の指導の工夫に繋げることができたか。	①各部門課程でアセスメントを有効活用する流れの確立と共有をすすめることができた。 ②様々な授業場面等で積極的なICTの活用が進み、指導の工夫に繋がられた。	①アセスメントを踏まえ設定した目標の達成に向け、授業改善の方策検討を深められるとよい。 ②ICT活用事例について学部内や学校全体での共有は、まだ不十分な面があった。	①各部門課程でのアセスメントの取組はよい。共通理解の基に児童生徒に応じた、手立てが講じられている。 ②ICT活用の充実が図られているが、活用の共有の仕組みや新たな機器への対応等迅速にできるとよい。	①目標設定のためのアセスメントの活用は一定の流れが出来ている。指導の手立ての充実にどのように反映させられるかが課題となる。 ②ICT活用は活性化しているが部門課程によって取組の工夫の違いはある。校内での共有と職員全体の更なる実践力の向上が望まれる。	①チームとして、指導の視点の共有と手立ての検討に取り組む流れを整えて、よりよい実践につなげる ②部門内や学校全体での共有のよりよい仕組み検討して、各職員の積極的な情報の収集とアップデートへの意識の向上を図る。
2	(幼児・児童) 生徒指導・支援	・「自分の可能性をきりひらく子を育てる」の視点から、すこやかにしなやかにたくましく生きる力の育成を組織的に行う。	①児童生徒の主体的な学びを引き出す指導・支援をチームで幅広い視点で実践していく。 ②専門職(自活・養護・栄養)および支援担当のチームと各指導グループの計画的な連携を通して、幅広い視点を持った指導支援の充実を図る。	①各授業グループ単位で、主体的な学びを引き出す視点での授業の工夫を模索して、校内研究等を通して指導の検証と共有を図る。 ②専門職および支援担当のチームが計画的かつタイムリーに支援・指導の検討や実践に携る流れを設定する。またニーズに応じた研修を実施する。	①各授業グループ単位で、主体的な学びを引き出す視点での授業の工夫を行い、校内研究等を通して検証と共有を行えたか。 ②専門職および支援担当のチームが計画的に、また必要に応じた場面で支援・指導の検討や実践に携る流れを確立できたか。またニーズに応じた研修等が設定できたか。	①主体的な学びの視点での授業検討の機会を各部門課程で設定して取り組めた。 ②専門職と指導グループの連携の流れは確立されつつあり、積極的な活用によって指導の充実が繋がることができた。	①指導の意図が明確に共有されて、継続性のある取組に繋がっていき、 ②部門課程内での情報共有が不十分な面はあった。部門課程の状況に応じた専門職との連携の工夫は継続の検討課題。	①教科会や映像を活用した事例検討はよい取組。教員間の情報交換が気軽にできることが大切。 ②専門職との連携が進められていることはよい。拡充が望まれる。	①研究や日々の検討により主体的な学びに繋がる指導実践が進んだ。実践が検証され、次の実践で深化されることが大切。 ②必要に応じた専門職と指導グループとの連携が行われ、更に拡充できる可能性はある。連携した内容の共有が関係職員内に留まり、部門課程での情報共有が不足する状況はあった。	①指導実践の成果の検証を行い次の実践に繋げるために、チームでの指導検討が日常的に行える流れを整備する。 ②部門課程と専門職とがよりよく連携できる体制や仕組みを引き続き検討する。また各相談事案等が、チームとして広い視点を基に検討、共有できるようにする。
3	進路指導・支援	・「自分の可能性をきりひらく子を育てる」の視点から、小中高と一貫した進路指導・支援の充実と個別最適な進路学習を実現する。	①小中高の各年代の児童生徒が、それぞれの目標に応じて、新しいことへチャレンジする気持ちを育てる指導を行う。 ②小中高の段階に応じた適切な情報共有を保護者に行い、保護者と共に段階に応じた、一貫性のある進路指導・支援を行う。	①段階に応じた適切な課題の提示を行い、自己選択・自己決定の場面を設定して、児童生徒の意欲を引き出す工夫を積み重ねる ②保護者に向けて、進路支援についての年齢に応じた情報共有を積極的に行い、共に考えていくための手立てや工夫を模索する。	①段階に応じた適切な課題の提示を行い、自己選択・自己決定の場面を設定して、児童生徒が新しいことにチャレンジする指導が行えたか。 ②保護者に向けて、進路支援についての年齢に応じた情報共有と共に考えていくための手立ての工夫を行うことができたか。	①自己選択・自己決定の視点を意識した指導の取組が広がられた。 ③部門課程、学年等に応じた資料準備や保護者への発信の工夫を行うことができた。	①児童生徒の課題を踏まえた取組や様々な場面に繋げる改善の検討は継続が必要。 ②保護者や関係機関、教員間の情報共有についての適切な時期や回数などは引き続き模索する。	①進路指導は小学部段階から必要なことを全体で理解して、学部に応じた指導の実施が大切。 ②進路指導の手引きは良いので、手引きを活用して保護者との共有が図れるとよい。	①自己選択を大切にする取組が様々な場面で実践された。自己選択と次の活動の繋がりをより意識して取組を深める。 ②部門課程、学年等に応じて、保護者への発信と考え方の共有を意識した取組ができた。より効果的な方法を模索して継続できるとよい。	①自己選択を活動の意欲に繋げ、活動を通して、出来たことが自信に繋がっていく指導のあり方を模索する。 ②保護者のニーズの把握を丁寧に行い取組の充実につなげる。また保護者だけでなく地域と協働した進路指導の充実も模索する。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価(3月19日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	<p>・「児童生徒を地域のフロントへ」の視点から、従前のセンター的機能を礎として、地域の学校、教育行政、地域資源等の連携・協働により、児童生徒が地域の中で暮らす力を育てる。</p>	<p>①オンラインも含め、近隣の学校や地域との交流および共同学習について、年間計画に位置付けた活動を活性化させると共に、新たな取組を積極的に模索する。</p> <p>②地域資源を活用した学びや学校の学習活動を地域に発信する取組について、年間計画に基づいた活動を活性化させると共に、新たな取組を積極的に模索する</p> <p>③センター的機能の充実につなげる取組として、市内小中学校職員と学び合える機会を整える。</p>	<p>①各部門課程とともに進むサポーター部会が連携して計画的な活動の拡大を推進する。また実施結果を積極的に発信・共有して新たな取組に繋げる。</p> <p>②各部門課程とみなで育てるサポーター部会が連携して計画的な活動の拡大を推進する。また実施結果を積極的に発信・共有して新たな取組に繋げる。</p> <p>③小中学校教員体験会の取組の定着と充実を図り、情報交換や連携を深める機会とする。</p>	<p>①各部門課程とともに進むサポーター部会が連携して活動の充実と拡大を行うことができたか。また積極的な発信が行えたか。</p> <p>②各部門課程とみなで育てるサポーター部会が連携して活動の充実と拡大を行うことができたか。また積極的な発信が行えたか。</p> <p>③小中学校教員体験会の取組が定着し、より充実して、情報交換や連携を深める機会となったか。</p>	<p>①オンラインも取り入れ、交流の取組の幅を拡げることができた。</p> <p>②展示や販売など地域資源を活かした活動を計画的に取り組むことができた。</p> <p>③地域小中学校教員との情報共有や連携の充実と拡大に繋がる機会となった。</p>	<p>①取組についての校内外の共有は不足していた。</p> <p>②地域資源の開拓は更に拡がるとよい。また取組の発信は不十分な面があった。</p> <p>③地域での認知を更に深めたい。また各職員の地域連携への意識も更に高めたい。</p>	<p>部門課程の状況に合わせた、地域と一体感のある取組ができている。居住地交流も積極的に行われている。学校だよりやいぶき祭を通して発信できていることはよい。地域との協働について、常のヒントを探して実施する姿勢が大事である。</p>	<p>①関係諸学校や地域との交流する機会は増えた。取組の発信と校内での共有は不十分であり、工夫が望まれる。</p> <p>②地域資源を活かした活動は計画的に行えた。活動の方法や場所は、更に積極的に模索して拡大が望まれる。</p> <p>③小中学校教員体験会の取組は昨年より充実が図られた。今後も更に活発化を図りより多くの教員が関わるとよい。</p>	<p>①引き続き交流活動の充実を図り積極的な計画立案を行うと共に、各部門間の取組の共有を活発に行える仕組みを探る。</p> <p>②引き続き地域資源を活かした活動を拡大するため、積極的な取組の発信と情報収集を行い、新規の取組を模索する。</p> <p>③センター的機能の取組や地域学校との学び合いにより、幅広く各教員が地域と関われるよう機会の拡大を検討する。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>・安全で安心な教育環境の整備をさらに推進するとともに、緊急時、災害時の対策を整備する。</p> <p>・教育活動の充実化のために、より働きやすい職場環境の整備を推進する。</p>	<p>①安全で安心な教育環境の整備に向けて、考えられる様々なリスクを想定しての対応方法を確認して整備する。</p> <p>②業務改善のアイデアを様々な視点から収集して、出来ることから改善を積み重ね、働きやすい職場環境作りをすすめる。</p>	<p>①部門課程での学習活動や各グループ業務において、付帯して考えられるリスクの想定を的確に行い、マニュアルや研修・訓練等に反映させて対応を整備する。</p> <p>②研修会やアンケート、衛生委員会等を通して、広く職員から業務改善につながるアイデアを収集して、関係部署で出来ることを検討するとともに、主体的に職場改善に取組む職場の雰囲気作りを行う。</p>	<p>①様々な学習活動や業務において、考えられるリスクの想定を丁寧に行い、マニュアルや研修・訓練等に反映させて対応を整備することができたか。</p> <p>②研修会やアンケート、衛生委員会等を通して、業務改善につながるアイデアを広く収集して、検討と改善につなげることができたか。</p>	<p>①様々な状況を想定した訓練やマニュアルの作成等の取組を進めることができた。</p> <p>②ツールを活用したアイデア収集や情報共有などを効果的に取り組めた部署も多くあった。</p>	<p>①起こり得る状況の想定をより広く丁寧に捉え、引き続き取組の充実を図る。</p> <p>②各部署によって取組の違いはあり、好例が校内で共有され拡げられるとよい。</p>	<p>①様々な教員の視点で災害への備えや環境整備が行われている。医療的ケアの安全な実施も検討されている。</p> <p>②業務改善、環境整備についての取組が大きな成果になることを期待する。末広小との協力体制も広げられるとよい。</p>	<p>①各部署で具体的な場面の想定を意識した検討が進んだ。また関係他機関との連携も少しずつ図れた。より想定を幅を広げて、綿密な検討を進められるとよい。</p> <p>②各ツールを活用した業務改善に繋がる取組は様々な場面で行われ、今後の取組拡大の可能性が示された。各職員がより広く主体的に関わっていけるとよい。</p>	<p>①より具体的な想定を行い丁寧な対応を検討する。また各機関と連携が必要な対応については協力体制の検討をすすめる。</p> <p>②新しい仕組みや方策について積極的な情報収集と活用を模索すると共に、すぐできる取組のアイデアを共有して、全職員が主体的に改善に関われるようにする。</p>